

屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

目 的 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

成 果 屋外に位置する美術工芸品や文化財建造物等の劣化要因となる周辺環境の変化について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 覆屋の劣化軽減機能に関する調査研究では、遺構保存覆屋根に使われる材料を対象に調査研究を進めた。吉胡貝塚(田原市)や須玖岡本遺跡・ウトグチ瓦窯(春日市)において照度・紫外線強度データロガーを設置し、積算照度と着生生物繁茂の関係について把握をすすめた。
2. 遺構の露出展示に関する調査研究では、地層大切断面(大島町)における侵蝕量調査を実施した。また、牧島アンモナイト館において化石産出地の露頭に着生する藻類について照度連続観測をスタートした他、富山市や神流町などの恐竜足跡化石露頭やいわき市アンモナイトセンターなど、化石産出地露頭の保存展示事例に関して調査を行った。また、断層の現地展示事例に関しても調査を継続した。



アンモナイト館における照度測定風景

3. 石塔の地震対策に関する調査研究では、高知藩主山内家墓所(高知市)の石灯籠の倒壊事例などの調査を行った。
4. 過去に修復された屋外文化財の保存状態評価では、平成27年度に保存修理を実施した鎌倉大仏において、損傷記録データの整理、大仏内での地震計測を開始した。

論 文・朽津信明、森井順之、酒井修二、運天弘樹「多視点ステレオ技術に基づく磨崖和霊石地蔵の劣化状況評価」『保存科学』57 pp.1-10 18.3

・朽津信明「保存科学から見た被災古墳の修復史」『保存科学』57 pp.77-90 18.3

発 表・朽津信明、森井順之「断層露頭の保存に関する保存科学的考察」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1

・朽津信明、森井順之「地質露頭の科学的保存と公開に関する研究」日本応用地質学会平成29年度研究発表会 岡山理科大学 17.10.12,13

研究組織 ○朽津信明、森井順之、柳沼由可子(以上、保存科学研究センター)